TAYCA REPORT

第151期　年度報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

テイカ株式会社

証券コード：4027

WE TRY NEW

いつも未来に挑戦

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

当社は第151期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）を終了しましたので、決算の概況などを、ご報告申しあげます。

平成29年6月

代表取締役社長　名木田　正男

当期の業績について

当期は、国内外の新規市場開拓や既存顧客との取引拡大などの販売活動を積極的に推し進め、化粧品向けの表面処理製品等の機能性製品の販売が好調に推移したことなどから、売上高は382億4千1百万円（前期比4.4％増）となりました。

また、製造原価の低減や経営全般にわたる効率化による収益の向上に取り組み、営業利益は58億5千4百万円（前期比23.7％増）、経常利益は59億6千9百万円（前期比22.5％増）、親会社株主に帰属する当期純利益は40億7千万円（前期比26.5％増）となりました。

なお、当期の期末配当金につきましては、1株当たり6円とさせていただき、中間配当金1株当たり6円と合わせ年間で1株当たり12円となります。

次期の見通しについて

当社グループを取り巻く事業環境は、まず、汎用用途の酸化チタンに関しましては、現在一時的に需給が逼迫した状態にあるものの、中長期的には供給過剰に向かうことが見込まれ、原燃料価格も上昇傾向にあるなど、収益面は厳しくなるものと予想しております。

機能性用途の微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛及び表面処理製品に関しましては、世界的に紫外線対策への関心が高まり、UVカット剤としての需要も旺盛であることから、市場は国内外ともに拡大していくものと予想しており、更なる拡販に努めてまいります。

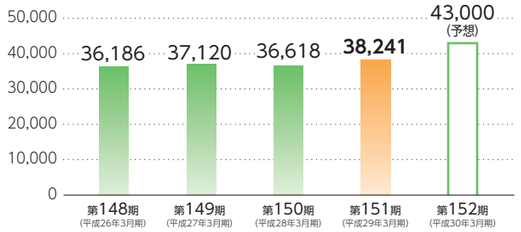
界面活性剤に関しましては、国内洗剤市場の需要拡大が見込めない一方で、東南アジアの洗剤市場は依然として成長しており、タイ及びベトナムの連結子会社による拡販に努めてまいります。

以上の状況から、次期の連結業績につきましては、現時点で売上高430億円、営業利益61億円、経常利益61億円、親会社株主に帰属する当期純利益42億円を見込んでおります。

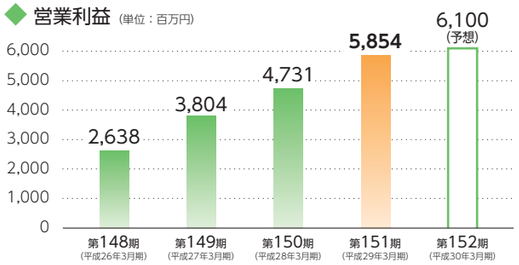
なお、次期の配当につきましては、現時点で当期と比べ2円増配し、中間配当7円、期末配当7円を合わせ、1株当たり14円を予定しております。

連結財務ハイライト

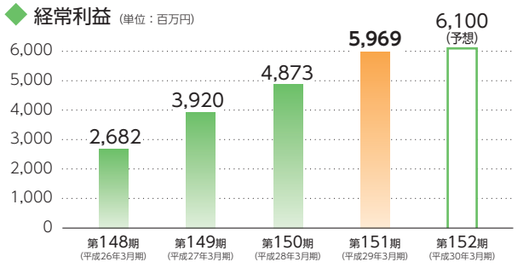
◆ 売上高 （単位：百万円）



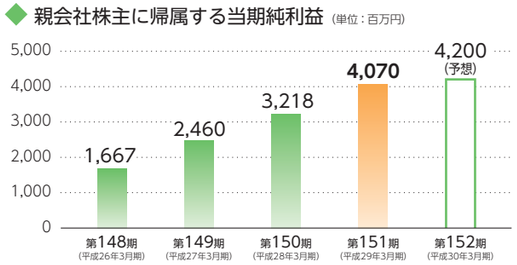
◆ 営業利益 （単位：百万円）



◆ 経常利益 （単位：百万円）



◆ 親会社株主に帰属する当期純利益 （単位：百万円）



酸化チタン関連事業

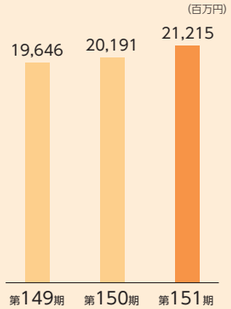
●汎用用途の酸化チタンは、国内は塗料・インキ向けの需要が堅調に推移、輸出も東南アジア市場を中心に順調に推移し、販売数量、売上高ともに前期を上回る。

●機能性用途の微粒子酸化チタンは、化粧品向けが堅調に推移し、販売数量は前期を上回るも、売上高は円高の影響を受け前期並み。

●表面処理製品は、化粧品向けのインバウンド需要などにより好調に推移し、販売数量、売上高ともに前期を上回る。

売上高
酸化チタン関連事業
21,215
百万円
55.5%

5.1%増
（前期比）



主要な事業内容	会社名
酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品、赤外線遮蔽酸化チタン、光触媒用酸化チタン等の製造、販売	当社 テイカ商事㈱

その他事業

●界面活性剤は、国内の販売数量は前期並みとなったものの、タイの連結子会社の販売は好調に推移し、売上高は前期を上回る。

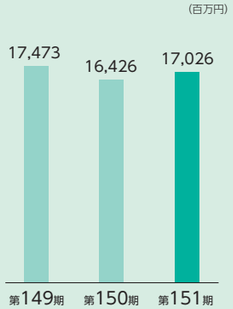
●無公害防錆顔料は、国内の販売は低調な一方、輸出は好調に推移し、売上高は前期並み。

●導電性高分子薬剤は、コンデンサ向けの販売が好調に推移し、販売数量、売上高ともに前期を大きく上回る。

●倉庫業は荷扱量が増加し、売上高は前期を上回る。エレクトロ・セラミックス製品は医療機向けの販売が好調に推移し、売上高は前期を上回る。

売上高
その他事業
17,026
百万円
44.5%

3.6%増
（前期比）



主要な事業内容	会社名
界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料、導電性高分子薬剤、エレクトロ・セラミックス製品等の製造、販売 化学工業薬品等の輸送、保管	当社 テイカ倉庫㈱ テイカ商事㈱ ティーエフティー㈱ テイカM&M㈱ TAYCA (Thailand) Co.,Ltd. TAYCA (VIETNAM) CO.,LTD.

TOPICS
トピックス

岡山工場「電解液製造設備」竣工

岡山工場内に建設された電解液製造設備

当社では昨年より岡山工場内に電解液製造設備の工事を開始し、平成29年2月28日に竣工いたしました。

永年培ってきた高純度合成技術を応用し、安価かつ安全で安定的な新規電解液の試作にも一定の目処が立ったことから、今後はこの設備を活かし、需要が見込まれる大型蓄電池電解液の本格製造を目指します。

「酸化チタン－物性と応用技術－」第2版を出版

当社OB清野学氏が酸化チタンの基礎理論と実用技術の解説書として編纂し、平成3年に発行した「酸化チタン」（第1版 技報堂出版）の第2版が、平成29年1月15日に発行されました。

第1版の発行から約25年が経過し、その後大きく発展した応用技術や種々の環境規則、関連規格の追加や改定など、旧データの刷新を当社が行い、編纂いたしました。

第2版 「酸化チタン －物性と応用技術－」

特 集

テイカのチカラ Vol.7 生産力「海外工場、新会社」編

テイカの事業について、わかりやすくテイカ博士がご紹介します。
第7回は「海外工場、新会社」です。

海外での生産拠点

タイとベトナムで界面活性剤を生産

当社は界面活性剤事業のアジア地域におけるグローバル展開として、タイとベトナムに関連子会社を設立しました。

この2ヵ国を拠点に、成長著しい東南アジア市場に対応し、界面活性剤のシェア拡大を図っています。

界面活性剤とは…

界面活性剤は、衣類用・台所用などの洗剤、シャンプー、化粧品などの身近な生活用品への応用をはじめ、産業界のさまざまな分野でその機能が利用されています。水と油の両方になじみやすい性質を持ち、洗浄や乳化、分散、可溶化などの働きをする物質です。

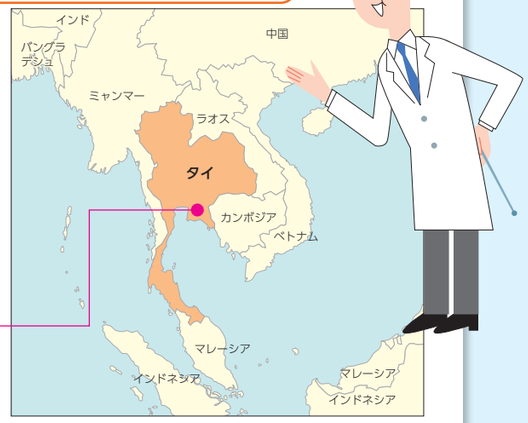
タイ工場：テイカタイランド

テイカタイランドは、アマタナコーン工業団地(チェンブリ県)に位置します。

タイの界面活性剤生産拠点

テイカタイランドは2001年（平成13年）10月に設立し、当社のタイにおける界面活性剤の生産拠点として2003年（平成15年）1月に工場を竣工、同年3月より商業生産を開始しました。

昨年には設立15周年を迎え、現在も順調に販売数量を伸ばしています。



ベトナム工場：テイカベトナム

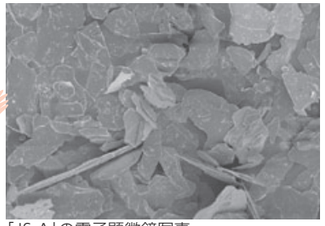
テイカベトナムは、ホーチミン中心部から北東へ約40km離れたロンドゥック日系工業団地に建設されました。

ベトナムにて2016年から生産開始

テイカベトナムは2014年（平成26年）2月に設立し、2016年（平成28年）5月の開所式を経て、商業生産をスタートしました。

新会社：ジャパンセリサイト株式会社

セリサイトは、感触が非常になめらかで伸びも良いのが特長で、ファンデーションなどの化粧品の原料に多く使われています。



「JS-A」の電子顕微鏡写真

化粧品原料の販売会社を設立

2017年（平成29年）4月11日、当社は三信鉱工株式会社と化粧品原料セリサイトを販売する合弁会社のジャパンセリサイト株式会社を設立しました。

世界の化粧品市場で、高い品質が認められているセリサイトを製造・販売する三信鉱工株式会社と、無機粉体に関して高度な技術を持つ当社が共同で開発した新しいセリサイト製品「JSシリーズ」などの販売を行っています。

（「JSシリーズ」の「JS-A」は、従来にない全世界の化粧品規格に適合したセリサイト製品です。）

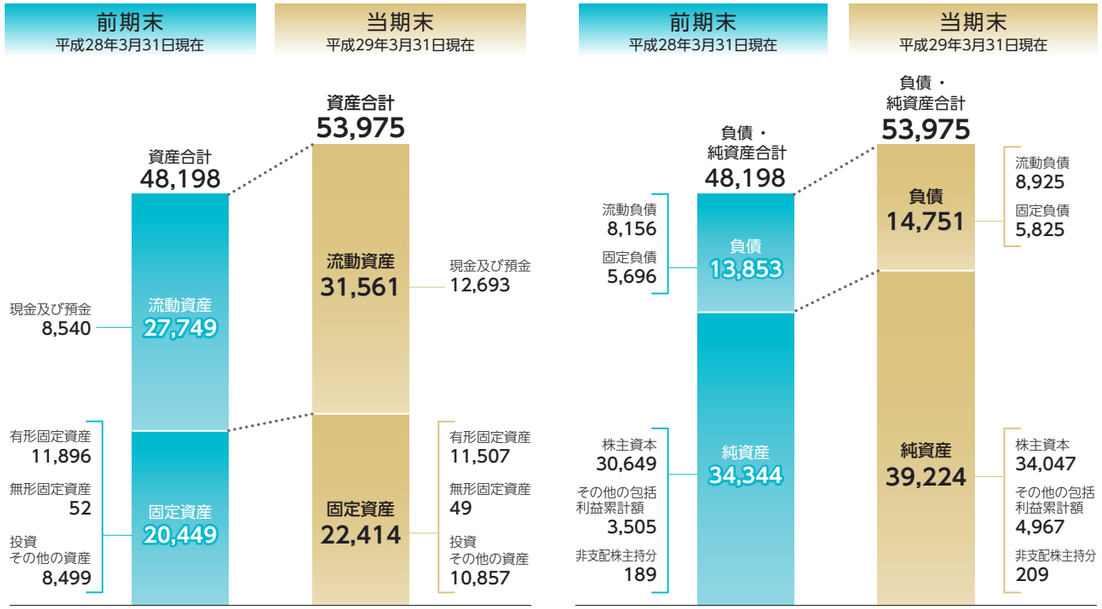
ジャパンセリサイト株式会社の概要

所在地：東京都中央区日本橋3丁目8番2号
（新日本ビルディング）
代表者：代表取締役社長　名木田正男
代表取締役副社長　三崎　順一

JAPAN
SERICITE
CORPORATION

［ジャパンセリサイト株式会社の会社ロゴ］

◆ 連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



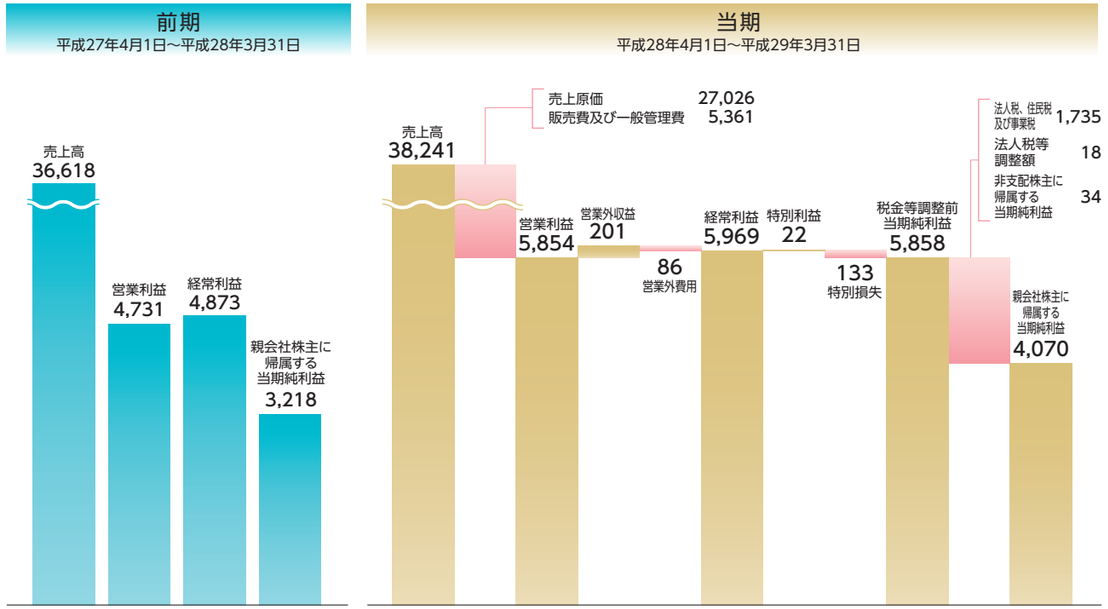
POINT 1 資産合計及び負債・純資産合計

当期末の資産総額は、539億7千5百万円(前期末比57億7千7百万円増加)となりました。これは主に、流動資産では、現金及び預金が41億5千3百万円増加、固定資産では、投資有価証券が24億2百万円増加したことによります。

負債合計は、147億5千1百万円(前期末比8億9千7百万円増加)となりました。これは主に、繰延税金負債が6億4千9百万円増加したことによります。

純資産合計は、392億2千4百万円(前期末比48億7千9百万円増加)となりました。これは主に、利益剰余金が35億5千万円、その他有価証券評価差額金が15億5千4百万円、それぞれ増加したことによります。

◆ 連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



POINT 2 営業利益

国内外での新規市場の開拓や既存顧客との取引拡大など積極的な販売活動を推進するとともに、製造原価の低減、経営全般にわたる効率化を推進することで収益の向上に取り組み、営業利益は前期に比べて増加しました。

◆ 平成30年3月期通期連結業績予想 (単位:百万円)

	当期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	来期予想 平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで	前期比
売上高	38,241	43,000	+12.4%
営業利益	5,854	6,100	+4.2%
経常利益	5,969	6,100	+2.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,070	4,200	+3.2%

◆ 株式の状況 （平成29年3月31日現在）

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	51,428,828株
株主数	3,538名

大株主

株主名	所有株式数（千株）
三井物産株式会社	3,568
KBL EPB S.A.107704	3,307
三菱商事株式会社	3,260
山田産業株式会社	2,940
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	2,018
テイカグループ持株会	1,885
日本土地建物株式会社	1,389
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,245
関西ペイント株式会社	1,224
双日株式会社	1,000

（注）当社は、自己株式4,400千株を保有しておりますが、上記には含めておりません。

◆ 分布状況

- 金融機関 …… 16.0%
- 証券会社 …… 1.4%
- その他法人 …… 40.5%
- 外国法人等 …… 15.4%
- 個人その他 …… 26.7%

- 1,000,000株以上 …… 52.8%
- 100,000株以上 …… 26.2%
- 50,000株以上 …… 5.2%
- 10,000株以上 …… 7.5%
- 5,000株以上 …… 2.4%
- 1,000株以上 …… 5.4%
- 1,000株未満 …… 0.5%

◆ 会社概要 （平成29年6月28日現在）

設立	大正8年12月
資本金	9,855,953,999円
従業員	471名（平成29年3月31日現在）
事業内容	各種化学工業薬品の製造、販売（酸化チタン、界面活性剤、硫酸、微粒子酸化チタン、表面処理製品、無公害防錆顔料ほか）
事業所	
本社事務所	大阪市中央区北浜3丁目6番13号 〒541-0041　電話（06）6208-6400（代）
本店 大阪工場	大阪市大正区船町1丁目3番47号 〒551-0022　電話（06）6555-3250（代）
東京支店	東京都中央区日本橋3丁目8番2号 〒103-0027　電話（03）3275-0815（代）
岡山工場	岡山市東区西幸西1072番地 〒704-8136　電話（086）946-8311（代）
熊山工場	岡山県赤磐市小瀬木50番地1 〒709-0717　電話（086）995-9290（代）
役員	代表取締役社長　名木田　正男
	常務取締役　山崎　博史
	常務取締役　辺見　武志
	取締役相談役　清野　學
	取締役　戸澤　正明
	取締役　西野　雅彦
	取締役　池上　毅
	取締役　田中　等
	取締役　尾崎　まみこ
	常勤監査役　岡田　功勝
	常勤監査役　宮崎　晃
	監査役　山田　裕幸
	監査役　山本　浩二

（注）取締役 田中 等、尾崎まみこの両氏は、社外取締役であります。常勤監査役 岡田功勝ならびに監査役 山田裕幸、山本浩二の各氏は、社外監査役であります。また、当社は株式会社東京証券取引所に対して田中 等、尾崎まみこ、山田裕幸、山本浩二の各氏を独立役員とする届出書を提出しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会基準日	3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502　大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話0120-094-777（通話料無料）

（ご注意）

1.株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り次ぎいたします。

3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

公告方法	電子公告 公告掲載URL　http://www.tayca.co.jp/ （ただし、電子公告により行うことができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告を掲載いたします）
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第1部

あの日あの時 第8回

1988年7月、大阪研究所新棟工事

当社の大阪研究所は、1988年（昭和63年）7月の起工式、第一期工事（～1989年10月）、第二期工事を経て、1989年（平成元年）12月に新棟が完成しました。

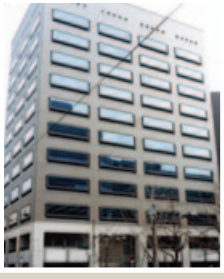
現在も当社の研究開発拠点として、ここからさまざまな開発品を生み出しています。

第一期工事終了時

第二期工事の様子

1989年2月、本社部門を御堂筋エスジービルに統合

当社の本社部門は、1965年（昭和40年）3月から大阪市大正区船町と大阪市中央区淡路町に分かれていましたが、1989年（平成元年）2月13日に大阪市中央区博労町の御堂筋エスジービルに統合しました。



統合後の本社部門

1989年8月1日、現在のテイカ株式会社に名称変更

1919年（大正8年）12月22日設立の当社は、1989年（平成元年）に設立70周年を迎えました。関係者へ謝恩の意を表す祝賀会を開催し、社名を帝国化工株式会社から現在のテイカ株式会社に変更しました。

会社ロゴ

TAYCA テイカ株式会社

http://www.tayca.co.jp/

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022337 www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK

本印刷物は、FSC®認証紙と植物油インキを使用しています。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。